

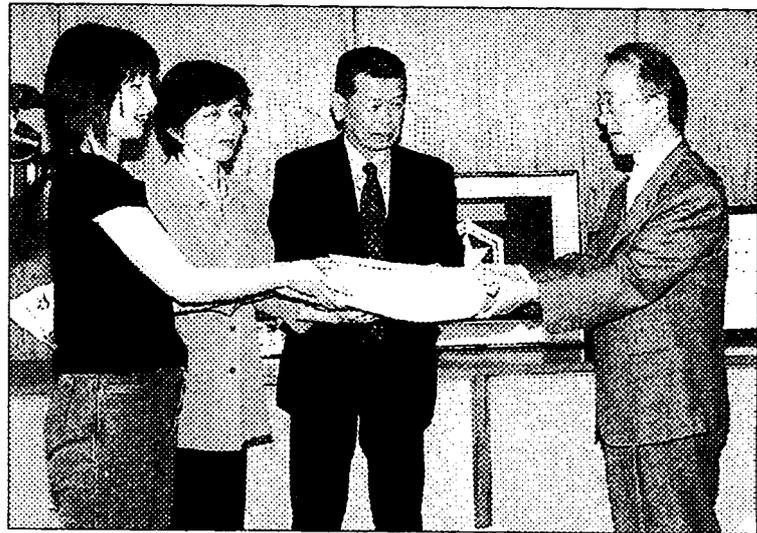
原町の場外馬券売場

反対署名6千人分を市長へ

市内原町、彦根インター隣への場外馬券売場誘致に反対している二団体は四日、地元住民と市民ら六千八十人分の反対署名を獅山向洋市長へ提出した。二団体は「場外舟券・車券売場建設に反対する自治会連絡協議会」（村井幸子会長）と「場外舟券・車券売場建設に反対する会」（徳永博会長）。

同問題は地域活性化のため設置を求める誘致派と、

「ギャンブル迷惑施設」として反対する団体の間で十年以上前から対立が続いており、市長選や市議選の争



点にもなった。改選前の今年二月市議会では誘致団体が提出した「設置同意請願」が採択されたが、直後に設置主体者のJRA（日本中央競馬会）から「彦根進出の意思はない」とする正式回答が反対団体に届き事実上「破綻」、その後、表立った動きは止まっている。

しかし反対団体では、誘致団体は運動の継続を表明しており再燃を阻止するために、反対署名活動を行い五月末までの集約分を市長へ提出したとしている。反対二団体によると、集まっ

た署名のうち原町在住者が千四百筆以上あり、同町人口の六割以上が反対を示したとみている。原町以外は約四千六百筆。

一方で誘致派の「原地域開発事業推進のための協議会」は今年二月、獅山向洋市長へ賛同署名八千二百五十六人分を添え陳情書（仮称）名神彦根リゾート複合ビル内に場外勝馬投票券発売所設置同意について」を提出、二月市議会では昨年十二月定例会で継続審査となっていた設置同意請願が採択となった経緯がある。